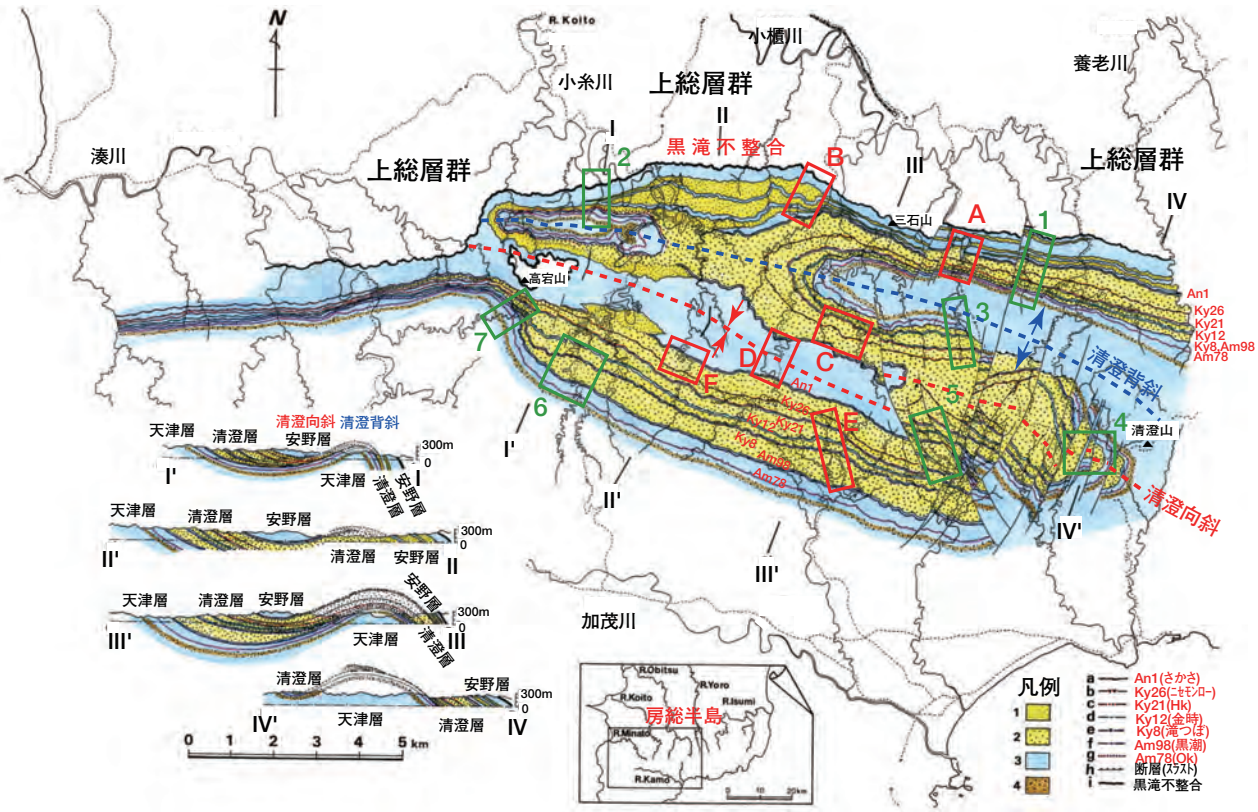
平山・中嶋方式のルートマップと多数の凝灰岩鍵層を融合した地質調査法とは？

＜徳　橋　秀　一[1)]＞

ほぼ1970年頃以降，当時の工業技術院地質調査所の技官であった平山次郎氏と中嶋輝允氏を中心とするグループによって，房総半島中部の黒滝不整合以南に分布する安房層群上部の地層（上位より，安野層・清澄層・天津層）を対象に，平山・中嶋方式による実践的なルートマップ（平山・中嶋型ルートマップ）の作成と多数の凝灰岩鍵層の活用を融合した地質調査法が確立した．そしてその後，こうした地質調査法による成果を基に，正確な地質図が作成されるとともに，詳細な地層の実体把握や形成機構の先駆的研究がなされた．今日，このような地質調査法の有用性と重要性が再認識され，若い世代に伝えられていくことの重要性が指摘されている．そこでここでは，この地質調査法がどのようなものか，具体的なイメージを持っていただくために，1970年代の野帳に記述されたルートマップなどの例を次ページ以下に示す．

本ページには，このような地質調査法によって作成された地質図の一例を示すとともに，次ページ以降のルートマップの作成位置を示す（詳細は，本文を参照）．



房総半島中部の地質図.
Tokuhashi（1979）を基に作成．四角い枠は，次ページ以降のルートマップ図の位置を示す．赤い枠は平山次郎氏によるもの，緑の枠は著者によるものを示す．各枠の方向は，野帳に描かれた中心的なルート（沢など）の伸びる方向にほぼ平行に描いてあり，野帳のページの枠の範囲やその配置方向を示すものではない．野帳では，次ページ以下に示すように，縦横に伸びる補助線に平行する上位の向きが北（磁北）を指すように記述されている．

岩相の凡例
1. 砂岩優勢互層（安野層）
2. 砂岩優勢互層（清澄層）
3. 泥岩および泥岩優勢互層（安野層，天津層）
4. 泥質砂岩～砂質泥岩（天津層）

1）産総研 広報部地質標本館